

中央大学学員会 第24号 49年白門会会報

発行日 平成24年6月2日(年2回発行)
発行人 山崎厚太
発行所 中央大学学員会49年白門会
印刷所 (有)東光美術印刷

東京都千代田区神田駿河台3-11-5 中央大学駿河台記念館学員会事務局

49年白門会のホームページ → <http://www.gakuinkai.com/hakumon49/>

49会のホームページから「会員の部屋」に入る際のユーザー名は49nen、パスワードはhakumonです。

49年白門会のメールアドレス → hakumon49@gakuinkai.com

会員の皆様の登録・変更をお願いします。PC、携帯でも可能です。



(題字・葛西聖司)

還暦に思う

49年白門会副会長 宮川保



こと。こは、六〇代の新入りとして、元気をもらえる先輩方を同期の皆さんで紹介したい。

昭和十七(一九四二)年、東條英機首相主導のもと大政翼賛会に大勝利をもたらした選挙、その無効を訴えた裁判があった。判決を出した裁判長は吉田久。裁判の経緯と判決内容は『気骨の判決』(清水聡、新潮新書)が書名で雄弁に語っている。

三年前の秋には小林薫主演でドラマ化されNHKスペシャルで放映されたから、ご覧になった方も多いだろう。判決の時、吉田はまさに六〇歳だった。

件の判決の後、吉田は裁判官を辞め、中央大学の教員となり、定年後は千葉商科大学で教鞭を執った。法の正義を追究する生涯だったと言えようか。ちなみに、久野修彦理事長・学員会会長は福井県出身の同郷。若いころ吉田家の書生を務めたと同じ

たことがある。

昭和四七(一九七二)年、我ら青春真っ只中、札幌でオリンピックが開催された。思い浮かべると、トワ・エ・モアの「虹と雪のバラード」が頭の中に鳴り響き、次いで聞かせる「さあ登谷、金メダルへのジャンプ、飛んだ! 決まった!」の声。そして熱狂。この「日の丸飛行隊」の活躍を現況中継したのがNHKアナウンサーの北出清五郎だ。東京オリンピック開会式も表況した北出はスポーツ中継アナとして知られるが、紅白歌合戦の総合司会も三回務めている。

北出は昭和二二年にNHK入局。テレビが始まった二八年から相撲中継を担当し、定年後も解説者として相撲に関わり続け、たくさんの著書で相撲の魅力を伝えた。国技館に程近い回向院に建立された東京相撲記者碑に、その名を刻んでいる。

還暦は人生の再起点

今年、我々は揃って還暦を迎えたわけだが、引退とは無縁の人たちもいる。たとえば、作家の北方謙三や俳優の古谷一行、棋士の米長邦雄も

六〇歳以上の学員でもある。漫画家の植田さとしも仲間だ。北方は昨年に毎日出版文化賞を受賞しているし、古谷はテレビ朝日の人気ドラマ「相棒」や「だましゝ歌麿」などに出演、米長は将棋連盟会長を務めるなかホームページ「米長邦雄の家」で闘病記も公表、植田の読売新聞朝刊・四コマ「ゴボちゃん」は一昨年の六月十四日に二万回を迎え、現在も連載中。若いながらもへやへや、今日日の若者より深刻としているではないか。

ひるがえって私を見れば、趣味への関心が衰えないことが幸いか。大を学を辞するに際して、二〇年以上携わっていた漫画研究会の会長職を同期のAさんをお願いし、自身は同会の監督に就任し今日に至っている。母校への貢献とも受け取られようが、これも趣味の一環か。三回以上上り下りとなる学生たちの息吹が、私の錆びついた頭に潤滑油をさしてくれる。己の道を歩む諸先輩方の姿に教えられ、後輩たちに扶けられる。還暦を人生の再起点として意識したとき、改めて深く中央大学に感謝する私を見つけた。

友へのメッセージ

市原の調理人と呼ばれています。 田仲 正道 (法) 千葉県 市原市

「美味い！久兵衛の寿司のようだ！」
「肉がこんなに柔らかくなるなんて
凄い！」

こんな言葉に乗せられて、ここ数年、在宅の休日には家族、知人の為に料理をしています。

還暦が近くなった頃、女房に先立たれた時、コンビニの弁当や外食で三食を済ますのは不健康と思ひ料理にチャレンジすることにしました。最初は料理の基本書を購入し料理をしてみました。驚きました。包丁も上手く使えました。味も素人としては合格のレベルでした。

念の為、近所の「男の料理教室」に入会しましたが、私の腕はその教室のレベルではありませんでした。講師の方に「田仲さんは主婦の皆さんの教室に行かれたらどうですか？」と体よく退会させられました。その後、主婦向けの教室には入らず料理をしています。

今では和洋中と何でもこなします。外で食事をする時、興味を持った料理が出るメニューをして家で再現してみることがあります。最近では鳥

根県松江市の「鯛めし」を再現して家族に喜ばれました。

自信を持つことは凄いことで、先日はグルメな友人十人を鴨川にある山荘に招待し、地魚の舟盛りと握り寿司を振る舞いました。しばらくは料理を楽しみ続けます。

呆け防止は料理が一番！

料理を続ける理由は幾つかありますが、一つは私に調理人としての素質があったこと。一つは私の料理を食する者が心底喜んでくれること。一つは食材の買い物に行くスーパーのレジに笑顔の素敵な女性がいること。一つは私のブログの料理の記事を楽しみにしておられる方が意外に多いこと。

そして、何より料理をすることのメリットは呆け防止にあるように思っています。何をやるかを考え、材料を書き出し、手持ちの材料をチェックし、不足分を買い出し、調理時間を予想し、タイムリーに料理を出せるようにする。効率的な手順を考えること。味付けの工夫、ヘルシーで美味しい料理は？ 盛り付けの美しさ等々脳の訓練になります。

月に四回程度の料理ですので、包

丁の使い方等衰えないようにする為、毎日の朝食に納豆を食べ、ネギを自分で刻んでいます。ゴルフのクラブと一緒で包丁も毎日、少しでも握ることが大切だと思います。

自慢気味な表現が多くなりましたが、自信を持たなければ料理を提供することは出来ません。皆さんも還暦を過ぎ時間の余裕が出来た方も多いことと思います。料理を始めては如何ですか？

美味しい料理は人を幸せにしてくれます。ご家族の笑顔が待っています。男性諸氏の料理への挑戦をお勧めします。



*田仲さんのブログにはレシピが載っています。49会のHPにリンクされていますので是非ご覧ください。

楽 苦 我 喜

荒木 康裕 (法)
東京都大田区

多摩の四季

〈楽苦我喜〉への寄稿依頼があり、お引き受けしたのはいいけれど、老化のせいかな、何もテーマが浮かばないままじっと手を見る。どうせ口く文章が書けないならば、大学のある多摩の四季の移ろいを少々ご紹介することをご容赦願いたい。

春…
多摩の春は鶯の早鳴きで始まる。早ければ2月下旬、遅くとも3月上旬には鶯の初音が、また葉をつけぬ榎や桐が天をつく寒々とした雑木林に響く。鳴き始めの鶯はうまくは鳴けない。ホーホケキョがホホホケやホケッキョとぎこちなく響く。僅かに芽吹いた木々の若葉が、林間を萌黄色に染める4月上旬には、うまく鳴けるようになった鶯が、己を誇示して日永一日鳴き暮らす。目を下に向ければ、草や睡子草の薄紫が、舞い降りた桜の薄紅色に混じって目に染みる。新緑が強い日差しに濃き緑に変わる頃、多摩は初夏を迎える。

夏…
七月のとある夕暮れ、大学の北門を過ぎてまた日の落ちきららない中坂道を急げば、^{あせ} 蝸のカナカナカナという鳴き声が雑木林の葉をざざめかすかのように響く。この声を聞くとなぜかひどく哀愁を感じる。また夏は始まったばかりである。大学の近くは蝸が鳴き始めとなる。真夏になれば、ミンミンゼミと油蟬が、日差しが強さに負けまいと覇を競うがごとく鳴き交わす。よく晴れた暑い朝、汗でシャツが背に張り付くほどに喘ぎつつ北門への坂道を上る。雑木林に目をやれば、下草の僅かに伸びた中に山百合の真白い花が一輪すくすくと立っている。よく見れば雑木林のあちこちに、白い花が孤高を保つがごとく点々と咲いている。夏の雑木林は静かで百合の白さが身に染みる。夕日が帷を下ろすのがいささか早く感じられるようになる頃、つくつく法師のオーシツツクを聞けばもう秋は近い。

秋に辿り着く前に、字数が尽きた。秋と冬はまたいつか機会があれば、ということにさせていたたいで責めを蒙ることとした。

東京タワー 2011年
見学会 11月12日(土)

「東京の空で、あそび」をキャッチフレーズに謳っている東京タワーへ、49年白門会の高齢者予備軍20名が集まった。修学旅行や遠征などで来て以来という人もおり、ほとんどが久しぶりの来場となりました。

11時30分入場。120メートルの大展望台から360度のパノラマは抜群、東京を一望できる有様に一国の城主になったような気分が満たされた。大手町方面の先には東京スカイツリーの姿が相對して聳えていました。

「あそこビルから半分見えている白い建物が僕の勤めていた会社だ」浜離宮の先方に見えるマンション、私の住んでいるところかも「お台場がこんなに近いとは思わなかった」等々、指をさしながら改めて地上から見る感覚とは異なった視覚に各自満喫していました。

250メートルにある特別展望台からは、東京湾を直下にディスプレイードから房総半島（京葉地区）、横浜ランドタワー、そして渋谷方面に僅かながら雲のかかった富士山を一望することができました。

午後一時「中華料理太陽樓」の店内に入り、落着く間もなく山崎会長の挨拶、小澤事業部長の乾杯で食事会がスタート。制限時間が1時間のバイキングとあって、各人好みの料理を、取り皿に満杯にして、がっつり食べた。最後に集合写真を撮りお開きとなりました。（広報部・千葉 幸嗣）

2012年
新年会 1月28日(土)

5日前に降った雪が日陰に凍って少し残っていて、底冷えのする1月の最終土曜日。49年白門会恒例の新年会が、東京・銀座の「Sunmi高松」で開かれました。

定刻の1時にスタート。山崎会長から「ほとんどの人が還暦を迎えています。兎に角健康が大事です、元気な顔で会えたことがうれしく思います」という挨拶に続き、大雪の新潟から今年も参加していただいた松平さんの乾杯の御発声で宴会がスタート。

今年は初参加の2人を加え35名が出席しました。料理は和・洋・中とバラエティーに富んであり、お酒も尽きることなく出てくる豪華さ。話題は病気や年金の話から政治・経済まで幅広い話題で盛り上がっていました。

昨年まではオークションがあったのですが今年「じゃんけん大会」をしようということが企画され、当日はワイン、チョコレート、日本酒、コーヒーカップ、お皿、エコ電球など16点が役員から提供されました。

食事も一通り出そろいお腹もぐちぐちになった時過ぎから「じゃんけん大会」が始まりました。全員が山崎会長とじゃんけんをして勝った名が袋に入った品物の中身を確認せずに頂くというところで、山崎副会長、宮川副会長、中島幹事長もそれぞれ2回ずつやり16点が勝った人にプレゼントされました。

ゼントされました。

還暦を迎えた大人の大人が必死の顔でじゃんけんをする姿は異様でした。1回戦に勝って絞られた5・6人でのじゃんけんは真剣そのもの。想像以上に燃え上がった30分間でした。じゃんけんに負けた人には「中大まんじゅう」が2個ずつプレゼントされました。

3時過ぎにお開き。校歌と応援歌の斉唱と、10年前と変わらぬ声量で誇る小澤さんのエール交換が続き、山崎副会長の一本締めでお開きになりました。（広報部・大竹 力三）

ビール工場 2012年
見学会 3月10日(土)

東日本大震災から1年になろうとする3月10日（土）の12時に、震災じりの天候ではあったが、府中市にあるサントリー武蔵野ビール工場見学に18名の同期が集まりました。

まずは3Fのスクリーン室で、プレミアム・モルツの出来る製造過程が上演されました。地下から深層地下水を汲み上げ100%天然水を使用しているそうです。その後、工場内の製造工程を見学しました。

ビールの素材である麦は二条大麦を原料にしているということで、全員で二条大麦を口に含んで噛んで食感と香りを体験しました。もう一つの素材であるホップは、ドイツ等から輸入したアロマホップを使用して、一般に使用されているビクノーホップとの香り（ビール特有の苦味）との違いも実際に嗅いで

比較体験しました。麦芽に天然水とホップを加え麦芽を造る仕込み工程は開口窓から仕込釜をのぞくことができませんでした。麦芽からの発酵工程、熟成させる貯酒タンク、オリや酵母を取り除くろ過工程、そして最後の缶詰工程と約40分の見学コースを一巡しました。

ビール工場見学最後の締めは、試飲コーナーでの「出来立てザ・プレミアム・モルツ」の試飲。待ってましたとばかりにグラスに注がれたビールを持って全員で乾杯しました。「うまい！」泡を口のまわりにつけ、ほとんどの人が発した第一声でした。

試飲コーナーでは美味しいグラスへの注ぎ方の実演紹介もありました。試飲は、ザ・プレミアム・モルツの他にサントリー製品ドリンクもあり、20分で3杯までの制限付きでした。

14時前、分倍河原駅前の懇親会場の陳麻家の暖簾をくぐりました。早速、山崎会長の音頭で乾杯。乾杯の飲み物はビールじゃなくて紹興酒に変わっていました。2時間後、紹興酒で紅潮した面々はまたの再会を期して分倍河原を後にしました。

49年同期 2012年
ゴルフ会 4月7日(土)

東京の桜が満開になった土曜日、埼玉県の飯能パークカントリークラブの桜はまたつばみ。桜の花の下でのプレーを期待していたが少し残念。

第6回目を迎えた今回も宮崎県から駆け付けてくれた黒木さんをはじめ、初参加の人も3名いて3組12人のコンペとなりました。

今年初めてのラウンドという人や、ハーフでエイツシュートだぞ我慢(?)する人等各組和気あいあいとプレイ。太陽が出ると暖かく、陽がかけると肌寒い気候の中、最終ホールあたりで突然雪が降ってきました。約2分間吹雪いてきました。初夏から冬までの季節の中でのラウンドでした。

懇親会では、1位から3位までとニアピン賞にそれぞれタオル等の賞品が渡され、全員に羊羹や飴などが渡されました。これらの賞品はこの会の高木会長が中大で購入してきた中大グッズでした。

スコアは90から134の間。スコアは関係なく、楽しいゴルフができるのが同期ゴルフ会です。秋は9月末に実施の予定です。皆様の参加をお待ちしています。（広報部・大竹力三）

宮川保副会長が表彰されました

5月12日に行われた「定時学員総会」で宮川保副会長が表彰されました。長年にわたり副会長をやり、支部活動を通じた学員会ならびに中央大学に対する多大な貢献を讃えられました。

当日は山崎会長をはじめ会員がお祝いに駆けつけました。宮川さんおめでとうございました。

2012年度 総会のお知らせ

「49年白門会」の2012年度の総会が開かれます。選歴・定年を迎えられた皆様の楽しいサロンとも言つべき「49年白門会」になりますように是非ご出席お願いします。今回は開始を12時にし、懇親会は12時半のランチタイムにしました。

日時・平成24年7月7日(土)
午後12時(11時半より受付)
場所・中央大学駿河台記念館
レストラン・プリオール

(東京都代田区神田駿河台3-11-5)
懇親会・12時半〜2時半 プリオール
会費は6千円です。

「49年白門会」役員 立候補者募集!!

今年度の総会は役員の改選期です。役員(会長、副会長、幹事長、

副幹事長、会計監事)に立候補しようとする人は、6月23日(土)までに、書面で左記の選挙管理委員長まで申し出ていただく。

(宛先) T101-80324
東京都代田区神田駿河台3-11-5
中央大学学員会事務局気付
49年白門会 選挙管理委員長
宮川 保



2012年度 会費納入のお願い

「49年白門会」は、皆様の会費によって運営されています。12年度の活動期間は2012年4月1日〜2013年3月31日です。会費はなるべく同封の、手数料を49会が負担する郵便振替用紙で7月31日までに納入してください。総会の会場でも納入できます。

その後の未納の方には随時納入の

事業部掲示板

お願いのお手紙を差し上げる予定で、会員皆様のご協力をお願いいたします。

11年度(11年4月1日〜12年3月31日)の会費納入者は103名です。(会計部)

●会費納入のお願い

49年白門会は会費によって運営されています。2012年度の会費を納めてくださるようお願いいたします。
2012年度の活動期間は2012年4月1日〜2013年3月31日です。
年会費3,000円、入会金1,000円です。
なお納入方法は、下のいずれかをお選びください。

- ①郵便振替 (手数料は49会が負担します)
振替口座番号「00180-3-196081」
口座名称 「49年白門会」
- ②銀行振込 (振込手数料が必要です)
銀行名 三菱東京UFJ銀行日野市役所支店 普通預金「0569115」
口座名 49年白門会 代表 山崎厚太

●49年白門会事務局

*住所変更、新規会員紹介の御連絡、会報への御意見などをお寄せください。

49年白門会幹事長 中島章夫

192-0393 東京都八王子市東中野742-1
中央大学 映像言語メディアラボ事務局
Tel 042-674-2750 Fax 042-674-2753
E-mail akio@tamajs.chuo-u.ac.jp

※メールアドレスの登録・変更は
hakumon49@gakuinkai.com にご連絡ください。

実施が決まりましたらホームページやメールでお知らせいたします。

◎総会・懇親会

7月7日(土)

◎カラオケ&ビアパーティー

8月4日(土)

◎ホームカミングデー

10月28日(日)

◎葛飾柴又散策

11月10日(土)

◎新年会

平成25年1月26日(土)

◎スパリゾートハワイアンス

(福島県) 1泊旅行

平成25年3月9日(土)〜10日(日)

原稿募集

次号掲載の「会員からのエッセー」では、今〇〇〇に夢中です」というテーマで皆様からの原稿を募集します。

趣味でもスポーツでもかまいません。孫、英会話、ボランティア等新しく目覚めてしまった事があると思います。そんな夢中な事を400字前後で事務局までにお送りください。締め切りは10月末日です。

広報部から手紙やメールで依頼することもありますのでその際はご協力お願いいたします。

編集 後記

再び チャレンジ

昨年、私たちの多くは選歴を迎えた。家族や仕事仲間など、皆それぞれ形で祝って頂いた事と思う。かくい僕も仕事仲間からのサプライズパーティーや家族との食事会など、去年ほど周りの人々の有難みを感じたことはなかった。

僕はこれまで、カメラマンとして写真事務所を立ち上げ、なんとか軌道に乗せることができた。それと同

時にどうしてもやりたい事があった。それは「卓球界に関わる事」だった。そんな卓球好きが高じて立ち上げたのが「卓球王国」だった。

大好きな卓球界をもっとメジャーにしたいという思いが、今日まで僕を突き動かしてきた。